公益社団法人日本ライフル射撃協会
2025 年度第 1 回理事会議事録

日時： 2025 年 5 月 24 日（土）13:30〜16:30
場所： ジャパンスポーツオリンピックスクエア会議室 8 及びオンライン会議（Zoom）
議長： 松丸喜一郎会長

出席者

対面出席（19 名）：

松丸喜一郎会長、田村恒彦副会長、平眞専務理事、大野明敏常務理事、
三木常務理事、平井宏治常務理事、佐橋朋木常務理事、成山悟史常務理事、
田中僚一郎理事、松島愛理事、酒寄貴瀬理事、穂苅美奈子理事、粟生由紀理事、尾﨑和郎理事、
仲本渚理事、五十嵐治人理事、岸髙清監事、門間健一理事待遇、大木盛義理事待遇

オンライン出席（6 名）：

寺澤良悦理事、髙橋信吾理事、青木満博理事、田中辰美理事、堀水宏次郎理事、永谷喜一郎監事

出席総数：

理事 21 名（理事総数 27 名中）、監事 2 名（監事総数 2 名中） 定足数を満たし、理事会が成立することが確認された。そのほか理事待遇 2 名、事務局が出席。
平専務理事が 13 時 30 分に理事 21 名出席で理事会が成立するとの宣言をした。事務局が、オンライン会議システムにより、出席者の音声が即時に双方向に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。

会長挨拶

松丸会長より挨拶があった。今日の理事会は 2025 年度第 1 回理事会として、前年度の事業報告・決算報告、今年度の補正予算について審議する。また、4 年間推進してきた日本ライフル射撃協会将来構想の中期 4 年間の総括報告、空気拳銃(AP)500 人枠所持管理の方針を含めた推薦基準要綱修正など重要事項が多数あるため、議論を尽くして円滑な進行への協力を求めた。

審議事項

1. 会長提案

1.1 2025 年度理事会推薦によるアスリート委員の選任の件

説明者： 松丸会長
資料： 口頭のみ
説明内容： 理事会推薦によるアスリート委員の候補者として、現在アスリート委員長を務める堀水氏をアスリート委員として推薦することが提案された。
審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

1.2 外部役員への日当・交通費支給検討の件

説明者： 松丸会長

資料： 口頭のみ

説明内容： 外部役員が増加している中、会議体参加に対する交通費や日当の支給について検討したい。一般社会との常識に乖離があり、外部の方に継続的に関わってもらうためには何らかの対応が必要である。以前の試算では主に交通費で年間 800 万円から 1000 万円の費用が見込まれるが、オンライン参加の普及も踏まえ、協会の財政状況に見合った形での支給制度を検討したい。

審議結果： 議長が理事会に諮り、今後、検討することが承認された。

2. 役員候補者選考委員会

2.1 総会審議事項：理事監事選任の件

説明者： 松丸会長、平専務理事

資料： 総会審議事項：理事監事選任の件・理事監事候補者（案）

説明内容： 2 月 25 日開催の 2024 年度第 5 回理事会にて選任された役員候補者選考委員により、役員候補者選考委員会が 4 月 28 日に開催され、理事・監事候補者が決定された。**役員候補者選考委員長となった松丸委員長より選考結果の説明があった。**退任する役員を除き、ブロック推薦理事の交代以外は基本的に留任とした。新たに加わる候補者として、山下敏和氏（自衛隊体育学校監督）、理事待遇から大木盛義氏、日本 eshooting 協会から成瀬兼人氏、学識経験者として小高左起子氏（日本クレー射撃協会）、外部理事として北川和徳氏（前日本経済新聞社記者）が提案された。監事は永谷監事が継続、平塚氏（前顧問弁護士）が新たな候補者である。女性理事割合 38%、外部理事割合 23%となり、ガバナンスコードの基準に近づいている。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3. 総務委員会

3.1 定時社員総会開催案承認の件

説明者： 平専務理事

資料： 定時社員総会開催案承認の件

説明内容： 2025 年 6 月 14 日（土）に NTC にて定時社員総会を開催する。審議事項として正会員の承認、2024 年度事業報告・決算、会員規程の一部改定、理事・監事の選任、役員報酬について提案される。報告事項として 2025 年度事業計画と補正予算を報告する。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3.2 総会審議事項：正会員承認の件

説明者： 平専務理事

資料： 総会審議事項：正会員承認の件

説明内容： 加盟団体の交代により、青森県、福井県、兵庫県、大分県、自衛隊体育学校から正会員の変更申請があった。中央競技団体選出正会員は、14 名となる。

修正内容： パラ射連の正会員を田中辰美理事から粟生理事に変更することが会議中に申し出られた。

審議結果： 議長が理事会に諮り、修正を反映した内容で承認された。

3.3 総会審議事項：2024 年度事業報告承認の件

説明者： 松丸会長、平専務理事

資料： 総会審議事項：2024 年度事業報告承認の件

説明内容： 2020 年度策定の将来構想に基づき、6 つの活動軸で事業を実施した。主要成果として、パリオリンピック 3 名出場、FTEM 事業継続、共生スポーツ推進、NTT 研究所との共同研究完了、e スポーツ委員会の ISSF 常設委員会化、AP500 人枠拡大への取り組み等が報告された。NTT 研究所との 3 年間の共同研究では、射撃競技における心身相関メカニズムについて重要な知見を得た。脳と心臓の協調性、呼吸コントロール技術、心周期と射撃タイミングの最適化に関する科学的データが蓄積され、当初目的の健康寿命延伸効果検証に加えて選手強化にも活用可能な成果となった。今後は国のムーンプロジェクトにも成果が活かされる予定である。
e スポーツ分野では、ISSF に e スポーツ委員会が常設委員会として設置され、日本 eshooting 協会の寺井氏が委員候補に選出された。松丸会長もスーパーバイザーとして継続参画予定である。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3.4 2024 年度特定目的資産の積立、繰入及び取り崩し承認の件

説明者： 平専務理事

資料： 2024 年度特定目的資産の積立、繰入及び取り崩し承認の件

説明内容： 取り崩し総額 1,400 万円、繰入れ総額 3,315 万 6,527 円が実施された。主な取り崩しはパリオリンピック対策準備基金、選手強化積立金等で、繰入れは 2029 年基盤強化積立金 1,500 万円、2029 年選手強化積立金 1,689 万円等である。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3.5 総会審議事項：2024 年度収支決算書承認の件

説明者： 平専務理事、岸髙監事（監査報告）

資料： 総会審議事項：2024 年度収支決算書承認の件

説明内容： 当初マイナス 320 万円の赤字予算でスタートしたが、最終的にプラス 1580 万円で終了した。収入改善の要因は電子標的による認定料収入増加、ENEOS 協賛金、JOC 追加補助金、NTC 壁崩落事故に関するフジタ株式会社からの補償金等である。支出面では海外合宿地を近場の韓国に変更し、国内合宿規模縮小等により節約を実現した。
岸髙監事より、5 月 13 日に外部監査を実施し、適正に処理されている旨の監査報告があった。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3.6 総会審議事項：会員規程の一部改定の件

説明者： 平専務理事

資料： 総会審議事項：会員規程の一部改定の件

説明内容： 会員規程に規定する学校の定義を整理し、専修学校学生を含められるよう規程を改定する。現行規定では第 1 条校のみを指すため、専修学校学生が対象外となっていた。改定により「本会が個別に検討し、学校教育法第 1 条に規定する学校に準ずると判断した学校に在籍するもの」を追加する。2024 年度は 44 名の学生のうち 8 名が専修学校学生であった。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3.7 2025 年度会長表彰者決定の件

説明者： 平専務理事

資料： 2025 年度会長表彰者決定の件

説明内容： 会長特別表彰として、パリパラリンピックでメダルを獲得した日本パラ射撃連盟の水田選手、長年協会に貢献された大川正視氏、田村恒彦氏、岸髙清氏、大野明敏氏が選出された

。年間活動賞として、パリオリンピック出場の岡田選手、野畑選手が選出された。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3.8 協会将来構想の年度進捗報告承認の件

説明者： 松丸会長、各委員長、藤井事務局長

資料： 協会将来構想の年度進捗報告承認の件

説明内容： 4年間の中期計画期間が終了し、各委員会から進捗報告があった。アスリート育成支援、共生スポーツ推進、競技運営改善、普及事業拡充、国際交流促進等の成果が報告された。松丸会長より、次の中期計画策定の必要性が強調され、具体的な指針なしには中央競技団体として漂流してしまうため、新たな4年間の将来構想策定が求められた。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3.9 2025年度補正予算案承認の件

説明者： 平専務理事

資料： 2025年度補正予算案承認の件

説明内容： 補助金交付決定により補正予算を編成した。JSCくじ助成による補助金収入は査定により80%となったが、JOC強化費が増額された。事業活動収支差額は当初1,000万円の赤字から780万円の赤字に改善された。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3.10 名誉職および理事待遇、参事の選任等に係る規程改定の件

説明者： 平専務理事

資料： 名誉職および理事待遇、参事の選任等に係る規程改定の件

説明内容： 名誉会長・名誉副会長の理事会での諮問応答・助言発言権限を明確化し、顧問の役割を明文化する。また、理事待遇・参事の理事会発言機会を拡充する。名誉会長1名、名誉副会長3名以内の人数制限を明記し、交代時の任期満了規定を整備する。

質疑応答：

- 田村副会長：他の協会はどうしているか。理事会で多くの方が発言すると収拾がつかなくなる懸念はないか。
- 松丸会長：議長の許可を得て発言するルールを徹底する。理事は原則発言できるが、その他の方は許可されない場合がある。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

3.11 総会審議事項：役員報酬の件

説明者： 松丸会長

資料： 口頭のみ

説明内容： 常勤役員の報酬額上限を400万円として総会に諮ることが提案された。新役員選任後の臨時理事会で常勤役員が出る可能性に備えた枠設定である。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

4. 推薦委員会

4.1 空気拳銃(AP)推薦管理と低年者の推薦料改定の件

説明者： 大野委員長、田中副委員長

資料： 空気拳銃(AP)推薦管理と低年者の推薦料改定の件

説明内容： 警察庁との協議の結果、本会が管理している推薦発行枠の500人に対して、実際の所持者は425名であり、500人枠を拡大するためには所持数を500人に近い人数にすることが求められた。所持数が500人に近づく管理体制構築が必要である。具体的には管理台帳の整備、所持報告・放銃報告の義務化、未申請者、所持報告・放銃報告の未報告者への罰則適用、低年者推薦料の有料化（3,000円）等を実施する。

質疑応答：

- 大木理事：推薦書有効期限1年は法令要件か。3ヶ月程度に短縮できないか。
- 田中副委員長：JSPOとの協議が必要。検討する。
- 藤井事務局長：管理はいつから開始するか。
- 松丸会長：警察庁の視察があるため可及的速やかに実施する。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

4.2 推薦基準要綱改定の件

説明者： 田中副委員長

資料： 空気拳銃(AP)推薦管理と低年者の推薦料改定の件

説明内容： AP推薦管理強化に伴う推薦基準要綱の改定が提案された。要綱で取消手続き権限を理事会から推薦委員会に変更する。対象はC.低年者の空気銃、D.拳銃、E.空気拳銃、F.低年者の空気拳銃の各推薦基準要綱である。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

5. 国スポ委員会 審議事項なし

6. 選手強化委員会

6.1 2025年度アスリートパスウェイ要綱改定の件

説明者： 成山副委員長

資料： 2025年度アスリートパスウェイ要綱改定の件

説明内容： JSCアスリート育成パスウェイアドバンスコース受講終了を受けて、新たに作成したアスリート育成パスウェイマップに合わせて要綱を改定する。また、受講完了により新たな助成金への申請が可能となった。改定内容として、発掘育成がT3まで、強化がT4から担当し、国際大会出場選手をエリート認定する明確な区分けを設けた。昨年度申請選手も今年度改めて申請が必要である。4月8日に各ブロック説明会を実施し、関東・中国ブロックも今年度はタレント事業を実施予定である。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

7. 競技運営委員会

7.1 競技記録公認規程改定の件

説明者： 粟生記録部会長

資料： 競技記録公認規程改定の件

説明内容： ①ミックス種目を除く男女混合開催の個人種目での日本記録公認規定を追加した。男女混合ファイナルで各性別の日本記録を上回る場合、それぞれの性別の日本記録として公認する。②種目名をISSFルールブックに合わせて統一する。

質疑応答：

- 大野常務理事：種目が多すぎるので整理してほしい。
- 谷川氏：新システム移行時にデータクレンジングを実施し、わかりやすくなるように整理する。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

7.2 日本記録公認承認の件

説明者： 粟生記録部会長

資料： 日本記録公認承認の件

説明内容： 4つの記録を日本記録として公認する。

質疑応答：

- 大野常務理事：50m ライフル3P女子のファイナル日本記録は、NTC 開催のため、記録をインドア記録として公認するのか。
- 谷川氏：ファイナルの得点のため、インドアでも正式記録として公認する。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

7.3 射撃場公認承認の件

説明者： 三木委員長

資料： 射撃場公認承認の件

説明内容： 宮崎県の射撃場公認申請について、現在 50m が 13 的、10m エアライフルが 10 的のみ設置されている状況での公認を承認する。今後競技別リハーサル競技会までに全ての射撃場に標的が設置される予定である。

質疑応答：

- 松丸会長：現在の設備状況で承認する必要性について確認したい。
- 三木委員長：既に使用開始しており、日本記録も出したいため。

審議結果： 議長が理事会に諮り、訂正を反映した内容で承認された。

7.4 公認審判承認の件

説明者： 三木委員長

資料： 公認審判承認の件

説明内容： 名誉審判員の推薦について承認を求めた。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

8. 普及・生涯スポーツ委員会

8.1 JRSF 認定コーチの認定の件

説明者： 成山委員長

資料： JRSF 認定コーチの認定の件

説明内容： B 級コーチ 6 名、C 級コーチ 8 名の認定について承認を求めた。

審議結果： 議長が理事会に諮り、案のとおり承認された。

9. マーケティング委員会　審議事項なし

10. コンプライアンス委員会　審議事項なし

11. アスリート委員会　審議事項なし

12. 愛知名古屋アジア競技大会準備運営本部　審議事項なし

報告事項

13. 会長報告　報告事項なし

14. 総務委員会　報告事項なし

15. 推薦委員会

15.1 審査結果

報告者： 大野委員長

資料： 審査結果

報告内容： 直近 1 年間で大口径の追加所持申請において、実際に大口径を使用していない申請者が見受けられる。推薦基準要綱に従い、年 1 回以上の使用を確認している。各加盟団体は推薦前によく確認してほしい。今月は過去最高の 45 件の AP 推薦を実施した。

16. 国スポ委員会

16.1 国民スポーツ大会開催内定地の正規視察報告（島根国スポ：松江市）

報告者： 平井委員長

資料： 国民スポーツ大会開催内定地の正規視察報告（島根国スポ：松江市）

報告内容： 2030 年島根国スポの射撃会場正規視察を実施した。50m・10m 射撃場は前回と同じ会場を使用するが、駐車場が狭いためビーム会場（体育館）をメイン駐車場とし、シャトルバス輸送を行う。50m 射撃場を 13 的に改修し、空いたスペースに仮設 10m 射撃場 26 的を設置予定。センターファイアピストルは警察学校射撃場を使用予定。全施設に空調設備がないため、9 月中旬開催での暑熱対策が課題である。

17. 選手強化委員会

17.1 WC ミュンヘン派遣報告

報告者： 資料のとおりにて説明省略

資料： WC ミュンヘン派遣報告

17.2 ジュニアワールドカップ派遣報告

報告者： 資料のとおりにて説明省略

資料： ジュニアワールドカップ派遣報告

17.3 ASIAN CUP 2025 成績報告

報告者： 資料のとおりにて説明省略

資料： ASIAN CUP 2025 成績報告

17.4 韓国仁川市レーザーピストルの小学生発掘事業調査報告

報告者： 佐橋委員長

資料： 韓国仁川市レーザーピストルの小学生発掘事業調査報告

報告内容： 韓国仁川市の小中学生対象レーザーピストル発掘育成事業を視察した。Morini 社製エア音付きピストルを使用し、10 発撃ちトーナメント方式と 40 発通常競技方式で実施されている。小学 1 年生から参加可能で、仁川市では 350 名が登録している。仁川会長との協議により、全日本小中学生大会に韓国から数名の小学生が参加予定である。

質疑応答：

- 松島理事：AP の管理はどうしているか。
- 佐橋委員長：射撃場に全て保管している。

18. 競技運営委員会

18.1 射場公認取り下げの報告

報告者： 三木委員長

資料： 射場公認取り下げの報告

報告内容： 資料のとおり報告された。

18.2 TD 名簿更新の報告

報告者： 三木委員長

資料： TD 名簿更新の報告

報告内容： 総会翌日に TD 講習会を実施予定である。

質疑応答：

- 松丸会長：TD のうちアクティブな人はどれくらいか。
- 三木委員長：十数名程度である。

18.3 次世代候補機種検討状況の報告

報告者： 三木委員長

資料： 口頭のみ

報告内容： 総会翌日に TD 講習会を実施するため、そこで次世代候補機種について意見聴取を行う予定である。

質疑応答：

- 松丸会長：今年度中に決定する前提であれば具体的なスケジュールの設定が必要である。
- 三木委員長：設定するようにする。

19. 普及・生涯スポーツ委員会　　報告事項なし

20. マーケティング委員会　　報告事項なし

21. コンプライアンス委員会

21.1 福岡県ライフル射撃協会への指導に関する報告

報告者： 平専務理事

資料： 口頭のみ

報告内容： 福岡県ライフル射撃協会においてパワハラと助成金目的外使用が確認され、指導文書を日本ライフル射撃協会から県ラへ発出した。また、日本ライフル射撃協会の通報相談窓口に寄せられる通報全般において、加盟団体内部からの通報が多い傾向にあるため、コンプライアンス周知徹底が必要である。

22. アスリート委員会　　報告事項なし

23. 愛知名古屋アジア競技大会準備運営本部

23.1 進捗状況報告

報告者： 尾﨑氏、田村副会長

資料： 23.1 進捗状況報告（画面共有のみ）

報告内容： 10m はライフル棟 2 階で実施、アジアパラは 50m に仕切りを設置予定。建物建設が入札不調で遅れており、バス転回場所確保、宿泊確保が課題である。5 月に TD ビジットがあり、組織委員会中央部が問題を把握した。11 月のデフリンピックでアジア競技大会向けトレーニング機会を提供したい。

質疑応答：

- 岸髙監事：11 月のデフリンピックで、入出国業務に関わる未経験者にも体験させてほしい。
- 尾﨑氏：組織委員会担当部署に持ち帰る。
- 田村副会長：愛知県警も一緒に体験できるよう声かけすること。
- 尾﨑氏：承知した。
- 松丸会長：宿泊地から射撃場までの移動時間が 1 時間 20 分程度かかると聞いている。選手や役員に過度な負担とならない競技スケジュールを検討して欲しい。

24. 会務報告

24.1 アスリート委員会選挙結果報告

報告者： 平専務理事

資料： アスリート委員会選挙結果報告

報告内容： 2025 年度アスリート委員選挙が 5 月 17 日から 21 日の間、電子投票により実施された。各種目男女それぞれ 2 名を選出し、有権者 41 名中 26 票の有効投票があった。当選者はライフル男子から岡田氏・松本氏、ライフル女子から清水氏・野畑氏、ピストル男子から森氏・吉岡氏、ピストル女子から相澤氏・山田氏が決定された。今後、堀水氏を加えた 9 名でアスリート委員会を開催し、委員長・副委員長を選出する予定である。
強化委員とアスリート委員は相反する立場ではないかとの指摘があるが、情報伝達がしやすいメリットもあり、それぞれの立場で活動することで良いとの見解が示された。

質疑応答：

- 平専務理事：相反する立場ではなく、それぞれの立場で活動できるということで良いか。
- 松丸会長：メリットがあるので良いのではないか。
- 田村副会長：兼務については、アジア競技大会等で NF から人を派遣する際も同様の課題があるが、両方の立場でしっかりやってもらうことが重要である。

24.2 退任挨拶

岸髙監事： 1996 年から 26 年間理事として、選手強化委員長、事務局長、監事を歴任した。皆さんのご指導をいただきながら務めさせていただいた。行き届かない点もあったが、皆さんのお

かげで何とかやり遂げることができた。長い間お世話になった。

大野常務理事： 様々な部門を担当し、協会を良くするために活動してきた。皆さんも自分のカテゴリーにこだわらず、協会をどう良くしていくかを考えて活動していただきたい。みんなの意見が集約される理事会にしてほしい。

田村副会長： 選手強化、指導者育成、国体改革、東京オリンピック開催等を担当してきた。皆様方のご理解、ご支援、ご指導に感謝している。全国の会員と射撃スポーツのために、高い志を持って立派な協会にしてほしい。

松丸会長： 2003 年から 22 年間役員、2008 年から 17 年間は専務理事、副会長、会長として経営を担当した。人生の真ん中を日ラと歩み、非常に充実した人生を与えてもらった。体制を支えた皆さんに心から感謝し、他団体の模範となる協会になってほしい。

---

16 時 30 分に議長が閉会を宣言した。

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長・代表理事　松 丸 喜 一 郎　松丸喜一郎　印

代表理事　田 村 恒 彦　田村恒彦　印

監事　岸 髙 清　岸髙清　印

監事　永 谷 喜 一 郎　永谷喜一郎　印